

かき ハマキムシ類について



図1 チャノコカクモンハマキ雄成虫（体長約 8 mm）



図2 チャハマキ雄成虫（体長約 1.3 mm）



図3 ハマキムシ類幼虫による果実被害



図4 フェロモントラップに誘引されたチャノコカクモンハマキ

1 生態

本県でカキを加害する主なハマキムシ類はチャノコカクモンハマキ、チャハマキの2種である。チャノコカクモンハマキの雌成虫は体長約10 mm、雄成虫はそれよりもやや小さい。体色は雌雄ともに褐色をしており、前翅には茶褐色の帯状斑が斜めにみられ、前翅端部には三角形の斑が認められる。なお、雄成虫には前翅前部に星形の斑がみられるが、その形状には個体差がある（図1）。

チャハマキの成虫は雌雄によって体色・体型が異なる。雌の体長は約15 mm、体色はやや光沢がある褐色である。前翅中央付近より翅の幅がやや狭くなり端部に向けて広がる。雄成虫は約1.3 mm、やや光沢がある暗褐色～褐色。前翅前部に前縁褶がみられることが特徴である（図2）。

卵は両種とも葉裏などに魚鱗状に産み付ける。チャノコカクモンハマキの幼虫は頭部が黄褐色で体色は緑色、老熟幼虫の体長は約20 mmとなる。チャハマキの幼虫は頭部が黒褐色、体色は緑暗色で老熟幼虫の体長は約25 mmである。

ハマキムシ類はカキのほか、ナシやカンキツ、チャ、常緑樹など花木も加害する。カキでは幼虫が葉やへたを果実とつづり合わせ、その内部で果実表面を食害する（図3）。いずれの種も年4回程度の発生で、最終世代幼虫は中齢幼虫まで生育したのち、常緑樹などで葉を巻き、その内部で越冬する。

2 発生状況

越冬幼虫は温暖な日には巻葉内で摂食して生育し、越冬世代成虫は4月頃より発生する。年間の世代数は主に4世代と考えられるが、その年次により世代数の増加が考えられる。本県において各世代の成虫発生最盛期は、5月上旬、6月下旬、8月上旬、9月中旬頃（図5）に認められる。

生育適温である25℃では、いずれの種も卵期間約7日、幼虫期間約18日、蛹期間約8日である。

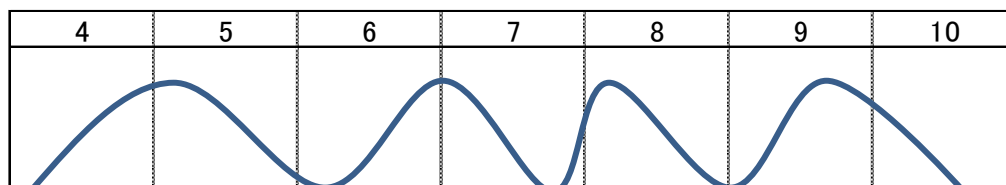


図5 ハマキムシ類成虫発生消長

3 防除対策

(1) 適期防除

薬剤による防除適期は成虫発生最盛期より7～14日後である。

(2) 薬剤防除

葉などをつづると、薬液がかかりにくくなるため、ふ化期～若齢幼虫期に防除を実施する。チャノコカクモンハマキとチャハマキの同時防除を行うことが通常だが、年や時期によって発生消長が異なることがあるため注意する。なお、薬剤抵抗性発達を避けるため、同一薬剤の連用は避ける。

(3) 交信攪乱剤

交信攪乱剤を使用する場合は、越冬世代成虫の発生前から設置する。